

令和4年度 大阪府立大阪北視覚支援学校 学校運営協議会 第3回 実施報告書

日時	令和5年2月16日（木）9時30分～11時00分		
場所	大阪府立大阪北視覚支援学校 同窓会館1階		
出席者	委員	[出席]猪又則広 亀甲孝一 佐々木一男 新開眞琴 山根純子 [欠席] 山本利和	
	事務局	太田淳一郎(校長) 南貴子(教頭) 辰巳純子(教頭) 眞野恭行(事務長) 小倉正幸(首席) 熊谷伸紀(首席) 滝口寛紀(首席)	
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度 第3回 学校運営協議会 レジユメ ・令和4年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況 ・学校教育自己診断票結果 ・令和5年度学校経営計画及び学校評価 		
協議要旨		議題	
		協議結果(○) - 意見の概要(-)	
	(1)	令和4年度 学校経営計画 学校評価について	<p>○結果と分析の部分、要点のみ追記。評価を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残業時間の削減や先生の待遇の改善、先生の成り手が不足している等の問題は社会全体の課題と感じる。 ・業務分担や各部の連携が改善されるように、会議や行事の精選をする等の抜本的な改革が必要かもしれない。
	(2)	学校教育自己診断 分析結果について	<p>○保護者からは、建物の老朽化の訴えが多数あり、交流や情報提供については肯定的な意見が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親や先生を感じる事が昔と変わらない。今後も視覚支援学校の子どもの数が減ることで教員数も減り、専門性が育たなくなる。さらに、教員の負担が増える一方で、保護者が不安になることが想像できるので、地域支援の先生は別に確保することが必要ではないかと感じる。また、今後は放課後以外にも支援に出る先生が増えていき、自校の授業を抜けることがあるなどの影響がでるため、生徒数に対する教員の配置人数という考え方は改めてほしい。
(3)	令和4年度 学校経営計画 学校評価について	<p>○仕事内容を見直し、スクラップすると同時にさらに新しいものを作り、効率化をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児相談とこぐま教室の幼児が小学部に進学できるように連携をめざす。点字の初期指導の重要性を保護者に説明し視覚支援学校のアピールをしている。 	
備考			